

ちゅうざん



「ちゅうざん病院」は沖縄市松本にあるリハビリテーション専門病院です

コロナ禍で迎える新入職員オリエンテーション



うりずんの風が吹く季節到来のなか、当院では新たに29名の新入職員が入職しました。4月1日から3日間、全体オリエンテーションが行われ、新型コロナウイルス禍ならではの光景のなかで全日程を終了しました。

尾川院長の「当院の運営方針」では患者中心の医療を提供するための考えかたを熱く語って頂き、新入職員はそれぞれが院長のミッションに感銘を受け、自身の専門職としてのあり方に影響を受けたことが研修終了後のレポートから受け取れました。チーム医療はお互いの職種のアイデンティティーを知ることで始まることから、各職種の役割について放射線技師、薬剤師、検査技師等それぞれの説明があり、興味を引く内容でした。管理栄養士は「栄養管理は全ての医療の基本」であることを力強く語っていました。2日目は患者接遇の基本姿勢について、お互いの自己紹介を行った後で、そのときの印象を相手に伝え、その後はお互いの身だしなみをチェックリストで確認するなど実技を交えながらの内容で和やかな雰囲気でした。3日目のリスク管理では「医療安全」と「感染対策」について、実際の手洗いやガウンテクニックなどを取り入れた参加型の充実した内容となっていました。

コロナ禍で臨床実習がままならない状況で学び舎を巣立ち、社会人としての新しい門出に気持ちを新たにした新人職員が、院長の「患者中心に考える思考を止めず一緒に働こう」という力強いメッセージを胸に、今後ちゅうざん病院で活躍していただくことを期待しています。

看護部長 仲西壽美



ドクターズ・リレーコラム

第6回・尾川貴洋

「障がい者スポーツに参加する意味とは？」

今年、オリンピックやパラリンピックが開催予定となっています。パラリンピックは障がい者の大会です。日本ではオリンピックほど知られていませんが、昨今はメディアで取り上げられることも多く、中には脚光をおびる有名な選手もいます。私は、障害者スポーツに長年たずさわり、パラリンピックや世界選手権などの帯同医の経験をしてきました。障がい者スポーツには、車いす陸上・ダンス・バスケット・ラグビーなどや、義足や知的障害者の陸上、目の不自由な方が行うゴールボール、重度な障害でも参加可能なボッチャなどいろいろあります。これらの障がい者スポーツへの参加で、競技の楽しみや人生の楽しみを感じられる方も多くいらっしゃいます。また一方で、障がいをお持ちの方は、併存して他の病気を持っていたり、なりやすかったりします。運動の効果は多大であり、例えば生活習慣病の予防や改善に役立つように、他の疾患の改善・予防効果が見込めます。このことから、今

回のコラムで伝えたいことは2つあります。一つ目はたとえ障がいを持っていてもスポーツを楽しむことです。二つ目は、障がいをお持ちの方はいろんな病気にかかりやすかったり、病気が重症化しやすい傾向があるため、障がい者こそ運動が必要であることです。だからこそ、日常生活の中でスポーツを通して運動を楽しむ、さらに健康的な生活をおくることが望ましいと思っています。私は、「日常の中のスポーツ」もリハビリテーションの一つと考えます。興味ある方は、スタッフにご相談くださいませ。



<ドクタープロフィール>

尾川 貴洋・おがわ たかひろ

和歌山県立医科大学卒業

専門分野：リハビリテーション科

日本リハビリテーション医学会専門医・指導医

日本障がい者スポーツ協会認定障害者スポーツ医

日本整形外科学会専門医・日本医師会健康スポーツ医



教えて管理栄養士さん

管理栄養士 大城菜実

「旬の野菜から栄養を取り入れて、元気に過ごしましょう♪」

寒さが少し和らぎ、温かい春はすぐそこまで来ていますね。四季のある日本では、季節に応じた旬の食材がたくさんあります。旬の食材は新鮮で栄養価も高く、比較的安価です。

今回は「春」が旬の食材を紹介します。

旬の食材



春キャベツ

キャベツの成分であるビタミンU（別名：キャベジン）は胃腸粘膜を丈夫にし、荒れた胃壁を正常に整えます。揚げ物など油が多いものと一緒にとると、過剰な胃酸分泌を抑えて胸やけを防ぐ効果が期待できます。



新たまねぎ

ツンとした香りの正体である硫化アリルは血栓を溶かし血液をサラサラ状態にするとともに、LDLコレステロール（悪玉コレステロール）を減らして動脈硬化を防いでくれる働きがあります。



セラピスト・健康講座

言語聴覚士 久手堅志穂

「コミュニケーションを支援するリハビリテーション」

私たちは生活の中で、気持ちや考えを伝え合うのに『ことば』を使用しています。そして豊かな生活を送る上で『ことば』はとても大切な役割をもっています。人と会話をする、本を読む、手紙を書くなどに加え、現代社会では携帯電話やパソコンを使用してメールやSNSでメッセージのやり取りを行うなど、『ことば』を使用する環境はより多様なものになっています。私たちにとって『ことば』は社会生活を送る上で欠くことのできない重要なものなのです。

しかし、脳卒中などの病気や事故による脳外傷が原因で、『ことば』によるコミュニケーションが難しくなる場合があります。その代表的な疾患に失語症があります。

失語症は、聴く・読む・話す・書くという言語活動が

困難になる障害です。相手が何を言っているのかわからない、自分が言いたいことばが出てこない、ことばを言い間違ふ、雑誌の文字が読めないなど様々な困難が生じ、多かれ少なかれ生活に支障をきたしてしまいます。

私たち言語聴覚士(ST)は患者様の能力に応じてコミュニケーション能力の改善を目指したりハビリテーション(リハ)を進めています。そして患者様のご家族や周囲の方々に対してもコミュニケーションをとるための有効な方法の提案やアドバイスをおこなっています。

また長期的な支援が必要な患者様にも、安心してリハを継続できるよう、退院後も通所リハや訪問リハ、外来リハなどでの訓練・援助をおこなっています。



部署の取り組み紹介

理学療法士 中曽根紫乃

「外来リハビリテーション」

→やりたいことをカタチに。再出発するためのサポート。

〇〇したい、そんな思いをあきらめていませんか？
外来リハビリテーション(リハ)では障害と向き合いながらどうしたらやりたいことをカタチにできるか、障害された機能を改善させる、残っている機能を活用する、道具や装具、環境を整えることなど出来ることを増やし、自分の住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるように、全力でサポートします。



- 対象：原則、介護保険を持っていない方で、通院可能な方。(※診断名や経過によって、実施が困難であったり回数が制限される場合があります。)
- 内容：移動や排泄等の身の回りの困り事、家事動作、高次脳機能障害、コミュニケーション障害(失語症)、飲み込み(嚥下)障害、手の怪我に対するリハまで行っています。介護方法の指導や自ら健康を維持できるように自主トレ指導も行っています。復職や就労、自動車運転再開に向けての支援も行っています。また今年より脳卒中患者様の手足の突っ張りに対してボツリヌス治療も行っています。

運動を行う事で、転倒や再発予防も期待できます。外来リハでは一人ひとりにあったお手伝いをしていきます。やりたいことをカタチにしていきましょう！

クローズ・アップ ～ かがや びと 輝き人～

今回は看護職として活躍されている看護師の我那覇彩愛さんにお話を伺ってきました。

Q 看護師を目指したきっかけは何ですか？

癌を患った母の介護がきっかけで、介護の仕事に興味を湧き、特別養護老人ホームで介護業務をしていました。働くなかでより手厚くかかわりたいと思うようになり、24時間寄り添うことができる看護師に魅力を感じ27歳で看護の道を志し、31歳で看護師になりました。

Q ちゅうざん病院を選んだ理由を教えてください

私は元々、看護師を志した時は急性期看護を志望でしたが、学生時代の急性期病院での実習で私が目指す看護とは何か違うと感じました。ちゅうざん病院での実習では、患者様と関わる時間が多く、寄り添う看護ができると感じ、この経験からちゅうざん病院で働きたいと思いました。

Q 現在の仕事内容とやりがいについて教えてください

患者様やその家族に合わせた介入方法を多職種と情報交換や意見交換を行いながらアプローチしています。食事や入浴、排泄ケアなど入院中の患者様の身の回りのケア援助を行うだけでなく、リハビリ訓練で獲得した能力を実生活で活かせるよう、24時間を通して援助しています。患者様とじっくり関わるからこそ、必要とされる声が聞かれた時に、看護師の必要性を実感し仕事のやりがいと看護の楽しさを感じます。

Q 将来の看護師像について

患者様やその家族の立場や価値観を踏まえ、個々を尊重した関わりができる看護師になりたいと思います。

<プロフィール>

我那覇 彩愛・がなは あやな
出身校:ぐしかわ看護専門学校
看護師歴:1年1ヶ月
特技:料理
趣味:ドライブ



【病院紹介】

ちゅうざん病院は、昭和59年に沖縄ではじめてリハビリテーション病院として開設され、現在では回復期病床216床を有するリハビリテーション専門病院として、高齢者や、障害者の人たちが、安心して生活できるような、医療・介護を提供しています。

スタッフのチームワークと熱意によって身体の障害、あるいは慢性疾患を持った患者様により良い心の通い合う医療をモットーに専門的なりハビリテーション、看護・介護を行い、患者様の社会復帰、家庭復帰を目指しています。

<アクセス・問い合わせ>

〒904-2151 沖縄県沖縄市松本 6-2-1

TEL:(098)982-1346



【編集後記】

寒い季節が終わり、暑い季節が近づいてきました。皆さん暑さ対策は大丈夫でしょうか？ 紫外線だけでなく熱中症にも注意が必要です。夢中で働いていると水分補給を忘れ脱水状態となりやすいので、意識してこまめに水分をとり、暑い時期を乗り越えていきましょう。(原)

発行責任者:尾川貴洋

編集長:千知岩伸匡

編集員:原健人